

学校教育目標：ふるさとを誇りとし、志高く、未来をたくましく切り拓く越ヶ浜っ子の育成

【校訓】

至誠 躍動 創造

かけはし



令和4年度 萩市立小中一貫教育校 越ヶ浜中学校 学校だより

R4.7.6

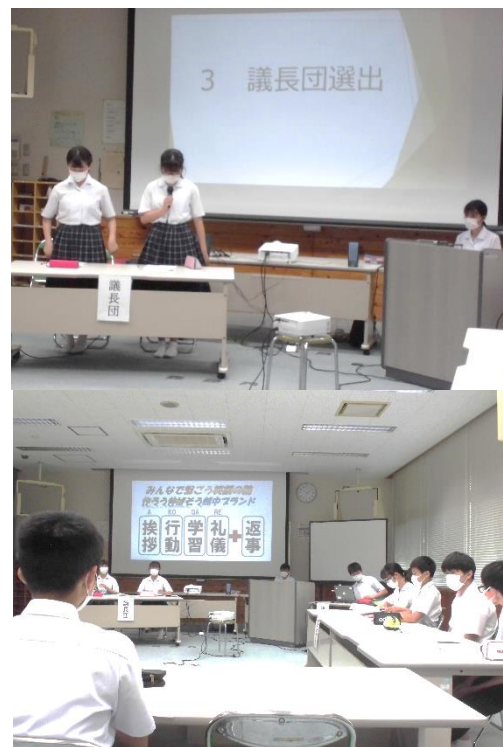
【生徒総会】

6月21日（火）に今年度の生徒総会を開催しました。前日まで、生徒会役員、各公共委員長、議長団が打ち合わせを重ねて準備をし、当日を迎えました。

まず、生徒会や各公共委員会の年間活動計画が報告されました。その後、生徒数減少に伴う生徒会規約および生徒会役員選挙規約の改正が執行部から提案され、承認されました。

次に、チャレンジ目標「みんなで繋ごう笑顔の輪 作ろう伸ばそう越中ブランド 挨拶・行動・学習・礼儀・返事」について意見交換を行いました。話し合いでは「日頃から大きくはっきりあいさつをする」「時計を見て、すばやく行動する」「いつでもどこでもいい姿勢」という具体的な目標が意見として出されました。

生徒総会は生徒のみなさんにとっての新たなスタートです。これまでの自分を振り返り、自分の行動をよりよく変えていくよい機会です。普段の学校生活の中で、生徒一人ひとりがチャレンジ目標を意識し、越中ブランドをより一層輝かせてくれることを期待しています。



【スクールカウンセラーによる「心」の授業】

スクールカウンセラーの先生が6月24日（金）に「心」の授業をされました。今回は、エゴグラムを用いて自分の心の状態を分析するという内容でした。授業の最後に、「自分の中にわくモヤモヤ、イライラなど何かに反応して起こるものです。それらとうまく付きあっていくためにも小さいことでも、早めにまわりの大人に話してみましよう」とお話をされました。



【不審者対応 避難訓練】

少年安全サポーターやスクールガードリーダーなど3名の指導者のご協力を得て、6月30日（木）に不審者対応の避難訓練を実施しました。

不審者に遭遇したら「近くの家や安全な場所に逃げる」「大声を出す」「まわりの大人に助けを求める」など、危険を回避する方法について再確認することができました。



【JICA 出前授業】

6月20日（月）の5・6校時に、山口県 JICA デスクから国際協力推進員の方をお招きし、出前授業を行いました。最初に SDGs に関する講話を聞き、その後、SDGs ババ抜きゲームや各委員会に分かれての課題解決ワークに取り組みました。

授業後の生徒の感想からは節電や節水、資源を大切にしたり、ゴミを減らしたりなどの「エコ活動」に対する意識の高まりが感じられました。



校長室から

2022年が幕を開け、すでに半年が経過しました。コロナ禍においても、学びを止めることなく、学習内容や学習活動を工夫することで、生徒が自ら学び成長できる機会をつくっていくことが重要だと考えます。コロナ後を見すえ、収束から再成長に向けて、学校においても「SDGs」の視点を意識することが大切です。

「SDGs」とは、Sustainable Development Goals（サステナブル・ディベロップメント・ゴールズ）の略語で、「持続可能な開発目標」と日本語に訳されています。2015年9月に国連サミットで定められた17の目標（ゴール）のことを指します。この目標（ゴール）の中には、「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「人や国の不平等をなくそう」「住み続けられるまちづくりを」「海の豊かさを守ろう」「パートナーシップで目標を達成しよう」などが含まれています。

今、世界では様々な問題が起きています。武力紛争、貧困や経済格差の拡大、感染症の流行、少子高齢化、地球温暖化の進行、自然災害の増加など、これらの問題を解決しなければ、人類や地球の繁栄は続いていきません。加えて、世界中の国々は経済・社会・環境の面で深くつながっており、世界の問題は日本の問題とも言えます。

持続可能な開発を実現するためには、「経済」「社会」「環境」のバランスを保つことが重要です。経済活動を通じて富や価値を生み出していくこと、社会的に弱い立場の人も含め、一人ひとりの人権を尊重すること、環境を守っていくことについては企業だけではなく、個人の取組も必要となります。

SDGsのことを知り、今の自分にできることを考え、具体的な行動に移すことで、人々が幸せに暮らし続けられる社会の実現につながっていきます。

今、越ヶ浜中学校では、生徒会活動の一環として、ペットボトルキャップの回収に取り組んでいます。集めたペットボトルキャップは回収業者に買い取られて、その後、日本赤十字社（国内外における災害救護などの支援）に寄付をされます。この活動は誰もが簡単にできる社会貢献活動です。

私たちの生活は気づかぬうちに誰かに支えられ、誰かを支えています。SDGsの視点を持ち、世界中で同じ目的を共有する人々とともに、よりよい未来の実現をめざし行動していきたいと思えます。